令和７年　ぶどう病害虫防除暦（大粒種基準）

富山県高岡農林振興センター

回数	月	時期	防除実施日	散布薬剤名	希釈倍率	薬剤の調合（水100リットル当り）	10a当散布量	収穫前日数	主な対象病害虫	注意事項
	休眠期（落葉後～発芽前）		り病枝や棚線等に残っている巻きづるや穂軸基部(前年のなり跡)は、病害の重大な伝染源となるので、可能な限り除去し園外に持ち出し処分する。						晩腐病、黒とう病、つる割病	●病害虫防除は、薬剤散布のみに頼らず、左記に記す耕種的対策と組み合わせて、総合的に予防することが重要。
			り病落葉は、病害の重大な伝染源となるので、集めて園外に持ち出すか、モア等で細かく粉砕する。						べと病、褐斑病、さび病	
			粗皮間隙は、ハダニ類等の越冬場所となっているので、粗皮削りを行い、越冬害虫の密度低減を図る。						越冬害虫（ハダニ、アザミウマ等）	
1	4	上旬（発芽前）		デランフロアブル	200 倍	500 ml	200 リットル	休眠期	晩腐病、黒とう病、つる割病	●デランフロアブルは、発芽後の散布により葉に薬害を生じるおそれがあるので避ける。
2		中旬（発芽直前）		ベンレート水和剤	200 倍	500 g	200 リットル	休眠期	晩腐病、黒とう病、枝膨病、つる割病	
				ベフラン液剤25	250 倍	400 ml		休眠期	晩腐病、黒とう病、褐斑病、つる割病	
3	5	上旬（展葉期）		オーシャイン水和剤	2,000 倍	50 g	250 リットル	7日前まで	黒とう病、灰色かび病、うどんこ病	●**コウモリガ**の発生がみられた場合は、主幹部に**ガットサイドS**を塗布（原液～1.5倍液）または散布（1.5倍液）する。
				アリエッティC水和剤	600 倍	166 g		30日前まで	べと病、黒とう病、晩腐病	
4		中旬		ジマンダイセン水和剤	1,000 倍	100 g	300 リットル	45日前まで	晩腐病、褐斑病、黒とう病、べと病	●**べと病**の発生が多い場合は、4回目のジマンダイセン水和剤を**リドミルゴールドMZ**（1,000倍、45日前まで）に変更する。
				スミチオン水和剤40	1,000 倍	100 g		21日前まで	ブドウトラカミキリ、フタテンヒメヨコバイ、コガネムシ類成虫	●**灰色かび病**の発生が多い場合は、**フルピカフロアブル**（2,000～3,000倍、30日前まで）を単剤で散布する。但し、抵抗性回避のためフルピカフロアブルの連用は避ける。
5		下旬（開花直前）		フロンサイドSC	2,000 倍	50 ml	300 リットル	開花直前～落弁期（但し収穫60日前まで）	晩腐病、黒とう病、灰色かび病、べと病、枝膨病	●**晩腐病、灰色かび病**の発生が多い場合は、5回目のフロンサイドSCを**スイッチ顆粒水和剤**（2,000倍、30日前まで）に変更する。
6	6	上旬（落花直後）		カンタスドライフロアブル	1,500 倍	66 g	300 リットル	7日前まで	灰色かび病、すす点病	●**うどんこ病**の発生が多い場合は、6回目のカンタスドライフロアブルを**ストロビードライフロアブル**（3,000倍、14日前まで）に変更する。
				パダンSG水溶剤	1,500 倍	66 g		14日前まで	チャノキイロアザミウマ、フタテンヒメヨコバイ	
7		中旬		オンリーワンフロアブル	2,000 倍	50 ml	300 リットル	前日まで	晩腐病、褐斑病、うどんこ病	●袋掛け前までに**カメムシ類、コガネムシ類**の発生が多い場合は、**ダントツ水溶剤**（4,000倍、前日まで）を散布する（7回目に混用可）。
8		下旬（袋掛け前）		エトフィンフロアブル	1,000 倍	100 ml	300 リットル	7日前まで	べと病	●幼果期～袋掛け終了までは、果面汚染（果粉溶脱）防止のため、展着剤を加用しない。
				アドマイヤー顆粒水和剤	10,000 倍	10 g		21日前まで	アザミウマ類、フタテンヒメヨコバイ	
9	7	上～中旬		ランマンフロアブル	2,000 倍	50 ml	300 リットル	14日前まで	べと病	●9回目について、バッファロー等の早生品種は、袋掛け終了後に散布する。
				ディアナWDG	10,000 倍	10 g		前日まで	アザミウマ類	●**ディアナWDG**は、抵抗性回避のため年1回の散布とする。
10		袋かけ後		ICボルドー66D	50 倍	2 リットル	300 リットル	―	べと病、さび病、黒とう病（ICボルドー66D）	
				又はコサイド3000（クレフノン加用）	2,000 倍 100 倍	50 g 1 kg		―	べと病、さび病(コサイド3000)	●袋掛け後（7月下旬以降）、アザミウマ類の被害がある場合は、**モスピラン顆粒水溶剤**（4,000倍、14日前まで）または**ダントツ水溶剤**（4,000倍、前日まで、チャノキイロアザミウマ対象）を単剤で散布する。
11	8	上旬		ICボルドー66D	50 倍	2 リットル	300 リットル	―	べと病、さび病、黒とう病（ICボルドー66D）	
				又はコサイド3000（クレフノン加用）	2,000 倍 100 倍	50 g 1 kg		―	べと病、さび病(コサイド3000)	
12		下旬		ICボルドー66D	50 倍	2 リットル	300 リットル	―	べと病、さび病、黒とう病（ICボルドー66D）	
				又はコサイド3000（クレフノン加用）	2,000 倍 100 倍	50 g 1 kg		―	べと病、さび病(コサイド3000)	
13	9	収穫後		ICボルドー66D	50 倍	2 リットル	300 リットル	―	べと病、さび病、黒とう病（ICボルドー66D）	
				又はコサイド3000（クレフノン加用）	2,000 倍 100 倍	50 g 1 kg		―	べと病、さび病(コサイド3000)	
14	10月下旬～11月上旬			トラサイドA乳剤	200 倍	500 ml	250 リットル	発芽前（休眠期）	ブドウトラカミキリ	

■殺菌剤

薬剤名	使用時期	使用回数
デランフロアブル	休眠期	1回
ベンレート水和剤	休眠期	1回
ベフラン液剤25	休眠期	1回
オーシャイン水和剤	収穫7日前まで	2回以内
アリエッティC水和剤	収穫30日前まで	3回以内
ジマンダイセン水和剤＊注1	収穫45日前まで	2回以内
リドミルゴールドMZ＊注1	収穫45日前まで	2回以内
フロンサイドSC	開花直前～落弁期（但し、収穫60日前まで）	1回
フルピカフロアブル	収穫30日前まで	2回以内
スイッチ顆粒水和剤	収穫30日前まで	2回以内
カンタスドライフロアブル	収穫7日前まで	3回以内
ストロビードライフロアブル	収穫14日前まで	3回以内
オンリーワンフロアブル	収穫前日まで	3回以内
エトフィンフロアブル	収穫7日前まで	4回以内
ランマンフロアブル	収穫14日前まで	3回以内

薬剤名	使用時期	使用回数
ICボルドー66D	―	―
コサイド3000	―	―

■殺虫剤

薬剤名	使用時期	使用回数
スミチオン水和剤40	収穫21日前まで	2回以内＊注2
ガットサイドS	幼虫喰入期直前～喰入初期（但し、収穫21日前まで）	2回以内＊注2
パダンSG水溶剤	収穫14日前まで	2回以内
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫21日前まで	2回以内
ダントツ水溶剤	収穫前日まで	3回以内
ディアナWDG	収穫前日まで	2回以内
モスピラン顆粒水溶剤	収穫14日前まで	3回以内
トラサイドA乳剤	発芽前（休眠期）	2回以内＊注2

■殺菌剤の主な使用ガイドラインと薬剤例　※耐性菌発生リスク低減のため

DMI剤	年総使用回数は原則2回以内、うち単剤使用は1回以内	単剤：オンリーワンフロアブル、オーシャイン水和剤
SDHI剤	年総使用回数は原則1回以内	単剤：カンタスドライフロアブル、アフェットフロアブル
QoI剤	年総使用回数は原則1回以内（本剤に対する耐性べと病菌が確認されており、べと病への防除効果は期待できないので注意する）	単剤：ストロビードライフロアブル、アミスター10フロアブル　混合剤：ホライズンドライフロアブル
QiI剤	年総使用回数は原則1回以内	単剤：ランマンフロアブル、ライメイフロアブル
CAA剤	年総使用回数は2回以内、うち単剤使用は原則1回以内	単剤：レーバスフロアブル　混合剤：ベネセット水和剤＊注1、ジャストフィットフロアブル、ベトファイター顆粒水和剤

＊注1：成分にマンゼブを含む農薬。マンゼブの年総使用回数は2回以内

＊注2：成分にMEPを含む農薬。MEPの年総使用回数は4回以内（但し、収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内）

アンダーラインは令和6年度防除暦からの変更点

※散布に当たっては、農薬のドリフト（園外への飛散）の無いよう、十分留意して散布してください。

※農薬はラベルを熟読の上、その記載されている使用基準を守って適正に使用しましょう！！

※使用時期、使用回数等の使用基準は令和7年3月6日現在の登録内容です。常に最新の情報を確認してください。